

特集 スピーキング力を伸ばす

即興でのスピーキング活動 (チャット)の指導法

今堀志津

(大阪府枚方市立津田中学校)

1. はじめに

チャットは、日頃からの準備がなければ、とてもできるものではありません。実際、「日本語でかまいません」と言われても、躊躇する生徒が多いことでしょう。ましてや、外国語である英語で行うとすれば、結果はもう明白です。それでは、普段からどのような準備をしておけばスムーズにチャットが行えるでしょうか。また、チャットを成功させるためには、どのような指導が有効でしょうか。本稿では、チャットのねらいを「英語を話すことに慣れる」とし、準備と指導法について、①英語指導面と②環境面の2つの観点から考えてみましょう。

2. 普段から取り入れたい英語でのQ & A

まず、生徒に自分の気持ちや考え、意見などを英語で表現させる練習として、普段の授業でのOral IntroductionやOral Interactionの際に、必ず先生と生徒の間でQ & Aを行います。その際、ただ単に事実に関する決まった答えの質問(closed question)だけではなく答えが決まっていない質問(open question)をして、生徒の気持ちや考えなどを表現させます。特に、NEW CROWNの教科書は内容を深められるレッスンが多いので、本文を扱う中で英語で生徒に気持ちや考え、意見などを発表させるのに適しています。

3. コミュニケーションを持続させるための簡単なテクニック

コミュニケーションを持続させるには、例えばPardon?やWould you speak more slowly?, Let me see.などの使用法やHow about ~?などの相手の意向を聞いたり、話を広

げたりする方法を普段から使用する機会をつくることです。これらは、いわば「お決まり表現」ですので、Q & Aなどの際にどんどん使わせて慣れさせることが大切です。

4. 音読から「プラスα」へ

普段からしっかりと音読(教科書の本文)を行い、英語のさまざまな要素を内在化させておくことが非常に重要です。特に目標としてチャットを行わせたい場合は、ダイアログ形式の本文を、何度もロールプレイングさせることです。この段階では、アイコンタクトをとったり、イントネーションに留意させたり、気持ちを込めた言い方をしっかりと習熟させておきます。また、通常のロールプレイングの次の段階として、「プラス・ワン・リーディング」を行います。これは、本文のダイアログを二人でロールプレイングしたあと、最後に一言ずつ、自分の好きなことを付け加えて会話を広げるという音読です。当然会話ですので、いくら好きなことを付け加えるといっても、二人の話がかみ合わなければなりません。コンテキストに合った内容でなければなりません。「プラス・ワン」で慣れてくれば、さらに1文ずつ増やして「プラス・ツー」、また1文ずつ増やして「プラス・スリー・リーディング」へ持ち込みます。この段階では、各生徒は、基本的には3文ずつ、自分で会話をしていることになります。

なお、同じペアとばかりのロールプレイングでは、どうしても話題が広がらなくなってしまいます。それを防ぐために回転寿司方式でペアをまわします。この方法により、その都度違った相手と練習することができるので、自然と話題に広がりが出てきます。

また、話題を広げるために、「プラス・スリー・リー

ディング」のあたりで、一度クラス全体で発表をさせます。その際、「同じ流れで会話が終わるものは3ペアまで」などのように、クラスの生徒の実態にあわせてルールを決めるなど、話題が自然と広がるように、あらかじめ工夫をしておきます。

5. チャット本番

いよいよチャットですが、生徒が慣れないうちは、既習ロールプレイングに関連の深いテーマを選びます。また、impromptuですので、できるだけ生徒が、「このテーマなら話したい」、「このテーマについてなら自分は話ができる」と思えるようなテーマ、つまり、生徒の生活や興味・関心に関連の深いテーマを選びます。また、「1分間続けてみよう」、「どのペアが一番長く続くかな」などと、時間的な制約を設けて、生徒の話す意欲を引き出します。

評価については、あらかじめ生徒に知らせておきたいいくつかの観点により、チャット本番で評価をします。このとき、生徒同士でも評価を行います。生徒同士の評価では、励ますことを目的とし、「励ましカード」というカードを配り、良かったことだけを簡単に記入させます。あとでこのカードを、チャットを行った生徒に渡します。

6. チャット終了後の指導

チャットを行うと、どうしてもエラーやミスタイクが出てきます。それらをその場で訂正するとコミュニケーションを中断させたり、生徒に間違いに対する不安を引き起こして積極的なチャットができなくなったりする可能性があります。そのため、私は次のような方法をとっています。生徒のエラーやミスタイクは、チャット終了後、コミュニケーションに支障をきたすエラーに限り訂正します。また、チャット終了後すぐに、できるだけ詳しく、たった今行われたチャットを紙に書いてもらいます。そしてのちほど、必要ならそれを訂正します。チャットを紙に書かせるこのライティングの活動は、定着をはかる効果もねらっています。また、チャットを書かせた紙は次のように使い、生徒のモチベーションを高めることもできます。

7. 環境づくりとモチベーション

前述のチャット再現の用紙を使用すれば、よいチャット、面白いチャットを学年の「英語通信(英語の授業に関する様々な情報や、生徒の英作文などの作品を載せた、いわば教科通信)」に載せて生徒同士で共有させることができます。また、学校のHPで紹介すると、さらに多くの人たちでチャットを共有できます。「英語通信」や学校のHPに作品を載せることにより、「よいものをつくろう」、「独創的なものをつくろう」という生徒のモチベーションも高まるようです。

また、普段から授業で生徒の外発的モチベーションを高める工夫が必要です。生徒が自分の考えを言えたら褒めることをはじめ、様々な方法があります。例えば、独創性の高いチャットができたときは、クラスでしっかりと褒め、ポイントを入れる(スタンプをおしたり、シールをはったりするなど、努力が目に見える形にするとよいでしょう)など、英語でチャットしてみようという気持ちを起こさせる工夫が必要です。私の経験から、一般的に「英語でしゃべってみたいけど…」など、生徒は本来「しゃべりたい」という欲求があるように思います。一度チャットがうまくできれば、生徒は必ず達成感を味わうはずです。また、英語でのチャットに自信が出てくるはず。これらをしっかりと引き出し、「次も頑張ろう」と生徒が思えるようなポジティブなサイクルをつくりあげる工夫が大切です。また、当然のことですが、「間違いは恥ではないこと」を伝えたり、「クラスメイトが困ったらサポートすること(ピア・サポート)」を奨励したりするなど、教室の環境づくりをしておくことも必要です。

8. まとめ

以上のことをまとめてみますと、普段から「チャットができること」を目標に単元を組み立て、準備をしておく必要があります。英語指導面では「階段を一段一段上るように誘導していくこと」、また環境面では、「モチベーションを高める工夫」や「間違えても恥ではないと伝えること」などが大切であるといえるでしょう。